



平安時代、紫式部が父・藤原為時^{ふじわらのためとき}に付き添い越前国府へ向かったルートには南越前町内にも含まれるとされています。今回は、国名勝「おくのほそ道の風景地」に指定された旧北陸道である湯尾峠を紹介します。

湯尾峠は現在、湯尾方面から頂上まで至る石段と石垣、茶屋跡が残されています。江戸時代には疱瘡除けの御利益を有す孫嫡子神社^{まごじやくし}とそのお守りを配布する4軒の茶屋がありました。俳人・松尾芭蕉は、この峠について「月に名を包みかねてやいもの神」と詠んでいます（いも＝疱瘡）。明治時代には、明治11（1878）年に明治天皇が茶屋で御小休をとっています。



湯尾峠：湯尾方面から見た頂上付近の様子

一見、紫式部と無関係のように見えますが、平成8（1996）年に旧武生市（現在の越前市）などが再現した「越前国司下向の旅」では、紫式部が通った道として、湯尾峠もルートの1つとして採用されました。

9月29日（日）に開催する、南越前町「紫式部ゆかりの地」PRイベントの第1部『紫式部ゆかりの地巡りバスツアー』では湯尾峠も巡りますので、ふるってご参加ください！

南越前町「紫式部ゆかりの地」PRイベントの詳細が決定しました！

開催日 9月29日（日）

開催地 今庄住民センター（集合場所および講演会・講談会 会場）

【第1部】紫式部ゆかりの地巡りバスツアー

時間 午前8時45分～午前10時45分

行程 今庄住民センター → 湯尾峠 → たこの呼び坂 → 山中峠 → 鹿蒜神社

【第2部】後藤ひろみ氏 講演会

演題 紫式部と南越前町 その人生とつながりをたどる

時間 午前11時～午後0時



後藤ひろみ

【プロフィール】

2010年に「ふくい歴女の会」を結成。2014年には福井県立歴史博物館内に「ときめぐる、カフェー。」をオープン。コミック版日本の歴史「紫式部」などの原作を担当し、多くのシンポジウムなどにパネリストとして出演。昨年8月、県内の歴史を新たな観光資源として発信する「県歴史コーディネーター」に就任。

【第3部】講談師 四代目玉田玉秀齋 講談会

演題 紫式部が見た越前

時間 午後1時30分～午後3時



四代目玉田玉秀齋

【プロフィール】

幕末、京都を拠点に活躍した神道講釈師・玉田永教の流れを汲む玉田家の四代目。玉田家は『猿飛佐助』『霧隠才蔵』『真田十勇士』『菅原天神記』『安倍晴明伝』などを世に広めた一門。当代・玉秀齋はロータリー交換留学生としてスウェーデンに留学中、逆に日本に興味を持ち、2001年、四代目・旭堂南陵へ入門。2016年、四代目・玉秀齋を襲名。現在、三重大学大学院にて忍者を研究中。

参加費 無料

申込方法 教育委員会事務局へお電話にてお申し込みください。

申込締切 9月13日（金）

問合せ 教育委員会事務局 ☎ 0778-47-8005